

# 山形県保健師長会ニュースレター

令和元年8月22日 第17号 発行：山形県保健師長会

暦の上では立秋が過ぎましたが、残暑厳しく、熱中症予防対策はまだ当分必要なようです。夜間になっても気温があまり下がらず睡眠不足になりがちですので、ご自身の健康管理にも一層ご留意ください。

今回のニュースレター第17号は、今年度の「山形県保健師長会総会並びに研修会」の開催状況と「全国保健師長会東北ブロック研修会」への参加ご報告をお伝えいたします。 (記:会長 小松香)

## 令和元年度山形県保健師長会総会並びに研修会の開催状況について

7月6日(土)の午後、山形県高度技術研究開発センター 第1・2研修室を会場に「令和元年度山形県保健師長会総会並びに研修会」が開催されました。当日は、多くの会員のみなさんのご出席をいただき、本当にありがとうございます。総会では提案された下記の議案について全て承認されました。

新役員体制でこの1年間頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

〔総 会〕 13:00～14:00 ❖ 出席35名、委任状129名

### (1)協議事項

- ① 平成30年度事業報告・収支決算について → 承認
- ② 令和元年度事業計画(案)・予算(案)について → 承認
- ③ 役員改選(案)について → 承認



今年度の全国保健師長会の研修会等への派遣予定は以下のとおりです。参加ご希望の方は、お近くの役員までお申し出ください。

【東北ブロック】・・・こちらは終了しました。裏面の研修会参加者のレポートをご覧ください。

- ★ 令和元年度全国保健師長会東北ブロック支部長会議 ※ 派遣:2名  
〔会場〕宮城県仙台市(宮城県医師会館) 〔日時〕8月10日(土) 午前
- ★ 令和元年度全国保健師長会東北ブロック研修会 ※ 派遣:4名  
〔会場〕宮城県仙台市(宮城県医師会館) 〔日時〕8月10日(土) 午後

### 【全国】

- ★ 令和元年度全国保健師長研修会 ※ 派遣:1名  
〔会場〕岡山県岡山市(メルパルク岡山) 〔日時〕11月14日(木)～15日(金)
- ★ 第41回全国保健師長会代議員総会 ※ 派遣:2名  
〔会場〕岡山県岡山市(ピュアリティまきば) 〔日時〕11月16日(土)

### (2)平成30年度の研修会等への参加者報告

- ① 東北ブロック研修会に参加して
- ② 令和元年度全国保健師長研修会に参加して
- ③ 第40回全国保健師長会代議員総会に参加して

いずれの報告者も「大変勉強になるので、ぜひ皆さんにも参加して欲しい」と結ばれました。



❁ 講演「効率的・効果的な保健活動の展開のための統括保健師への期待」  
講師 国立保健医療科学院 次長 曾根 智史 先生

❁ 情報提供「山形県保健師人材育成ガイドライン」について

説明 置賜総合支庁保健企画課 健康長寿推進主幹 伊藤京子 氏

「令和元年度研修会に参加して・・・」

総会終了後に研修会が開催されました。公衆衛生学を長年積み上げてきた講師の先生のご講演では、保健師の現場指向型の考えを周りに理解してもらい、どう動かしていくかの熱き思いを具体的にお話いただき、私たち保健師に対する期待がひしひしと伝わってきました。

◎迷ったときは目的を明確にする。我々のミッションは何か！

「公衆衛生は健康における社会正義の実現である」

◎内なるスタンダードを持つ！

「人生の不幸の7割は他人と比較することから始まる。」自分の確たるコアを持つこと。

◎意欲も能力のうち。身銭(お金・時間)を切って勉強する。

年収の2%年休の10%は専門職なら使いましょう！！

組織人である一方で自主独立の気概と根性が必要である。「どうしましょう？」ではなく、「こう考えますが、いかがでしょうか？」と自分の意見を述べる。立場で話せること、話されることを理解すること。立場を自分の実力と勘違いしないこと。等、心に響く言葉の数々。そして最後に「世の中には理不尽なことはいっぱいあるので、自身の感情をコントロールする術を学びましょう。」と締めくくられました。

その後、情報提供として、「山形県保健師人材育成ガイドライン」について、昨年度健康づくり推進課で作成に関わった置賜保健所保健企画課 伊藤京子氏よりガイドラインができるまでのご苦労と想いを熱く話していただきました。「これから5・6年先を描き、今を頑張る！」「発行された今、運用していくことが大事！」とのことでした。みなさん、この思いを胸に山形県のガイドラインを活用し、仕組みづくりを進めていきましょう！（記：黒田美紀理事）

## 令和元年度全国保健師長会「東北ブロック研修会」に参加して・・・ 来年度は秋田県での開催予定

8月10日(土)、宮城県医師会館(地域連携支援センター)を会場に開催された研修会に参加してまいりました。当日は75名(当会からは5名)の参加でした。まず、開会の挨拶では、宮城県支部の小林支部長からは、地域住民のいのちと健康を守る保健師活動のために 10 年先を見据えた後輩の育成が重要であること、宮城県保健福祉部の伊藤部長からは、特に災害時支援時の保健師活動への期待が込められていました。

はじめに全国保健師長会の山田祐子副会長より、今年度の全国保健師長会の活動報告があり、今年度の最重点活動目標は、①保健師活動の可視化及び質の向上 ②情報発信の強化 ③災害保健活動の推進 ④市町村の会員拡大です。全国保健師長会は発足 40 周年を迎え、各々の部会・委員会の活発な活動を身近に感じる事が出来ました。また調査研究班報告では「災害時の保健活動推進マニュアル」を秋頃の完成を目途に作成中ですが、方向性としては保健師に限らず『保健活動を担う自治体職員が災害時に読めば直ぐに活用できるもの』を目指しているということでした。

休憩をはさみ「地域に責任をもった活動の強化～10年先を見据えて～」と題して、全国保健師長会 第10代会長の大場エミ氏のご講演を伺いました。岩手県出身の大場氏は、現在、大学で保健師学生の育成にご尽力される一方、保健師活動に危機感をもたれ、保健師はやっていることをまとめて発表していないのではないかと多忙であるが、もっと健康課題を出し合い、施策化することから始めることが10年後にも職種として必要な保健師であると熱く語ってくださいました。後輩や、中堅、管理職、OBの先輩、研究職の保健師と力を合わせながら、保健師としての活力を生み出すための多くのヒントをいただき、その後のグループワークでは他県の仲間たちと学びや悩みなどを共有することができ、本当に得ることの多い充実した研修会でした。

来年度は秋田県での開催予定です。ぜひ、皆さんにも参加していただきたいと思いました。（記：三浦慶美監事）